安全データシート

1.　化学品及び会社情報

化学品の名称	スエードアップスプレー
推奨用途及び使用上の制限	特定用途：繊維品および皮革の処理　剥離剤及び接着防止剤。 エアゾール容器入り製品として、火気・高温部・密閉空間での使用を避ける。
供給者の会社名称、住所、及び電話番号	株式会社昴 大阪府大阪市大正区小林西 1-16-3
会社電話番号	06-6556-1118
緊急連絡電話番号	06-6556-1118

2.　危険有害性の要約

化学品の GHS 分類

項目	分類
エアゾール	区分 1
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分 2
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分 3
水生環境有害性　短期（急性）	区分 3

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル

注意喚起語：危険

危険有害性情報

極めて可燃性の高いエアゾール。

高圧容器：熱すると破裂のおそれ。

強い眼刺激。

眠気又はめまいのおそれ。

水生生物に有害。

注意書き

安全対策

熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。

裸火又は他の着火源に噴霧しないこと。

使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。

粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。

屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。

取扱い後は皮膚をよく洗うこと。

環境への放出を避けること。

保護眼鏡／保護面を着用すること。

応急措置

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪いときは医師に連絡すること。

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合、医師の診察／手当てを受けること。

漏えいした場合：着火源を除去し、十分に換気すること。

保管

日光から遮断し、40℃以下の換気の良い場所で保管すること。高温になる場所に置かないこと。

火気、熱源、直射日光、静電気、火花を避けること。

施錠して保管すること。

廃棄

内容物／容器を地方自治体及び国の規制に従って廃棄すること。中身を使い切ってから廃棄し、火中に投じないこと。

他の有害危険性：エアゾール容器は加熱により内圧が上昇し破裂するおそれがある。DME は空気より重く、低所や密閉空間に滞留し、引火・爆発のおそれがある。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：混合物（エアゾール製品）

化学名	CAS RN	化審法番号	安衛法番号	濃度又は濃度範囲
ジメチルエーテル（DME）	115-10-6	(2)-360	公表化学物質	20～40
乳化剤	非開示			＜1.0%
シリコンエマルジョン	非開示			20～40
水、その他成分	非開示	-	-	残量

4. 応急措置

必要な応急措置

一般的アドバイス：応急措置担当者は自分の安全確保に注意を払い、推奨されている防護服を使用する。ばく露する可能性がある場合は、第 8 項の保護具の情報を参照。

吸入した場合：新鮮な空気の場所に移動させ、呼吸を快適に保つ。眠気、めまい、気分不快がある場合は医師の診察を受ける。DME ガスを大量に吸入した場合、酸素欠乏・麻酔作用のおそれがある。

皮膚に付着した場合：多量の水で洗い流す。液化 DME が皮膚に直接触れた場合は凍傷のおそれがあるため、こすらず温水で徐々に温め、医師の手当てを受ける。

眼に入った場合：直ちに水で数分間注意深く洗う。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続ける。眼の刺激が続く場合は眼科医の診察を受ける。

飲み込んだ場合：エアゾール製品として通常想定されない。口をすすぐ。無理に吐かせない。気分が悪い場合は医師に連絡する。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状：強い眼刺激。DME により眠気又はめまい、酸素欠乏症状を起こすおそれがある。

緊急治療及び必要とされる特別処置の指示：特別な解毒剤はない。ばく露に対する治療は患者の症状に応じて臨床的処置を行う。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	耐アルコール泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素（CO2）、水噴霧。
使ってはならない消火剤	棒状注水は火災を拡大するおそれがある場合がある。
特有の危険有害性	DME を含むエアゾール缶は極めて引火しやすい。加熱により容器内圧が上昇し、破裂・飛散するおそれがある。蒸気／ガスは空気より重く、低所に滞留し、遠隔の着火源まで移動して逆火するおそれがある。有害燃焼副生成物として一酸化炭素、二酸化炭素、ケイ素酸化物等を生じることがある。
消防士へのアドバイス	区域から退避させ、漏えいが安全に停止できない限り漏えいガス火災を無理に消火しない。未開封容器を水噴霧で冷却する。安全であれば未損傷容器を火災区域から移動する。消火を行う者は自給式呼吸器及び防火服を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：関係者以外を退避させる。換気を十分に行う。火気、火花、静電気、高温物などすべての着火源を除去する。防爆型の機器を使用し、火花を発生しない工具を使用する。

環境に対する注意事項：規定されたレベル以上の水環境で製品を放出しない。排水施設に流してはならない。DME は揮発して拡散するが、原液成分は水生生物に有害のおそれがあるため、流出が著しい場合は地方自治体に通報する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材：安全を確認し、漏えい源を遮断する。液状の残留物は不活性吸収材で吸収し、適切な容器に回収する。エアゾール缶の破損漏れでは、密閉空間にガスが滞留しないよう換気する。

以下の項目を参照のこと：7、8、11、12 及び 13

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

皮膚や衣服に付けない。蒸気、ミスト、スプレーの吸い込みを避ける。飲み込まない。眼との接触を避ける。漏れや廃棄物を防止し、環境への放出を最小限にするよう注意する。

裸火又は他の着火源に噴霧しない。使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしない。

防爆型の電気機器、換気装置、照明器具を使用し、静電気放電に対する措置を講ずる。火花を発生しない工具を使用する。

容器は危険有害性がある。空容器の内部には残留物が存在するので、容器が空になった後も SDS 及び警告表示を遵守する。

適切な換気装置の下でのみ使用する。密閉空間、低所、ピット内では DME が滞留するおそれがあるため使用しない。

保管

適切なラベルの付いた容器に入れておく。各国の規定に従って保管する。

日光から遮断し、40℃以下の換気の良い場所で保管する。50℃以上の温度に暴露しない。

火気、熱源、酸化剤から離して保管する。子供の手の届かない場所に保管する。

容器に不適な素材：知見なし。ただし、缶・バルブ・ガスケット・塗膜との適合性は DME 及び原液処方で事前確認すること。

8. ばく露防止及び保護措置

成分	管理濃度・許容濃度等
ジメチルエーテル（DME）	日本産業衛生学会・ACGIH 等の最新値を確認。高濃度ばく露及び酸素欠乏に注意。

ばく露防止

設備対策：局所排気装置や全体換気装置を使用し、気中濃度が許容濃度や管理濃度より低くなるよう管理する。防爆型設備を使用する。

呼吸用保護具：許容濃度を超える可能性がある場合、又は換気が不十分な場合は適切な呼吸用保護具を着用する。密閉空間では酸素濃度にも注意する。

手の保護具：耐薬品性手袋を用いる。液化 DME による凍傷防止を考慮する。

眼の保護具：ケミカルゴーグルを使用する。

皮膚及び身体の保護具：この物質に耐薬品性のある保護衣を着用する。作業内容に応じて顔面シールド、長靴、エプロン、帯電防止作業服を選択する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	エアゾール（容器内：液化ガス及び液体原液、噴射時：スプレー）
色	白色
臭い	特徴的／DME 臭を含む可能性
pH	7
沸点又は初留点及び沸騰範囲	DME：約 -24.8℃、原液参考値：約 100℃
引火点	エアゾールとして該当せず。DME は極めて引火しやすい。
可燃性	極めて可燃性の高いエアゾール

爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	DME：約 3.4 - 27 vol%
蒸気圧	DME に由来し高い
相対密度	原液参考値：0.98。
溶解度	水に混和又は分散する成分を含む。
動粘性率	20 cSt @25℃
粒子特性	非該当

10. 安定性及び反応性

反応性	通常の取扱条件では安定。強い酸化剤と反応することがある。
化学的安定性	通常の状態では安定。ただし、加熱、火気、静電気、直射日光は避ける。
危険有害反応可能性	DME は極めて引火しやすく、空気と爆発性混合気を形成することがある。150℃を超える温度まで空気中で加熱されると、原液成分からホルムアルデヒド蒸気を発生することがある。
避けるべき条件	高温、直射日光、火花、裸火、静電気、衝撃、密閉空間での大量噴射。
混触危険物質	強酸化剤との接触は避ける。
危険有害な分解生成物	一酸化炭素、二酸化炭素、ホルムアルデヒド、ケイ素酸化物などを含むことがあり、これだけとは限らない。

11. 有害性情報

可能性のあるばく露経路の情報：吸入、眼に入った場合、皮膚接触、飲み込んだ場合。
急性毒性（即時影響を及ぼす短期間ばく露を示す。特に断りのない限り慢性／遅延影響は見られない。）

項目	製品情報・成分情報
急性毒性（経口）	製品情報：誤飲した場合でも毒性は非常に低いと推定。原液成分情報：LD50 推定値 >5,000 mg/kg。
急性毒性（経皮）	長時間の皮膚接触で有害量を吸収することはないであろう。液化 DME 接触時は凍傷に注意。
急性毒性（吸入）	DME を含むエアゾールとして、高濃度吸入により酸素欠乏、眠気、めまい、麻酔作用のおそれ。
皮膚腐食性／刺激性	短時間接触では本質的に皮膚刺激性がない又は軽度と推定。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	強い眼刺激。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	利用可能な情報に基づく限り分類できない。
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	DME により区分 3（麻酔作用）に該当する可能性。
発がん性、催奇形性、生殖毒性、生殖細胞変異原性	利用可能な情報に基づく限り分類できない又は該当しない。

12. 環境影響情報

本項にはデータが存在する場合に生態毒性情報が記載される。

項目	情報
生態毒性	原液成分により、水生生物に有害。水生環境有害性 短期（急性）区分 3。DME 自体は環境有害性に分類されない情報が多い。
残留性・分解性	データなし
生体蓄積性	生物濃縮の可能性は低いと推定。
土壌中の移動性	関連データなし。
オゾン層への有害性	モントリオール議定書に含まれるオゾン層破壊物質には該当しないと推定。
他の有害影響	原液成分の難分解性・生体蓄積性・毒性（PBT）は評価されていない。

13. 廃棄上の注意

廃棄方法：「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」及び地方条例に定められた方法に従って、焼却等の処理を行う。委託する場合は、許可を受けた廃棄物処理業者に委託する。

汚染容器及び包装：エアゾール容器は中身を完全に使い切ってから、法令及び自治体の指示に従い廃棄する。火中に投じない。使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしない。

大量廃棄又は未使用品の廃棄：可燃性ガスを含むため、火気のない換気の良い場所で専門業者に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

輸送分類	情報
国連番号	UN1950
品名（国連輸送名）	エアゾール（AEROSOLS）
国連分類	クラス 2.1（引火性ガス）
容器等級	非該当
海洋汚染物質	該当しないと推定。
道路及び鉄道輸送	消防法、労働安全衛生法、毒劇法、高圧ガス関連規制等に該当する場合は、それぞれの該当法令に従う。
海上輸送（IMO-IMDG）	UN1950 AEROSOLS, 2.1。
航空輸送（IATA/ICAO）	UN1950 AEROSOLS, 2.1。旅客機・貨物機の数量制限、包装基準、LQ 適用は最新版を確認。

15. 適用法令

法令	該当性・記載案
化審法	既存化学物質リスト収載済みの成分を含む。優先評価化学物質：該当成分あり（原液 SDS 記載に基づく）。
労働安全衛生法	危険物・引火性の物（施行令別表第１第４号） 危険物・可燃性のガス（施行令別表第１第５号） 名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第５７条第１項、施行令第１８条第２号～ 第３号、安衛則第３０条別表第２） 名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第５７条の２第１項、施行令第１８条の２ 第２号～第３号、安衛則第３４条の２別表第２） ジメチルエーテル（安衛則別表第２の番号：1011）
消防法	非該当。エアゾール製品として可燃性ガスを含む。
高圧ガス保安法	DME は液化ガス。エアゾール容器入り製品は容器容量・圧力・構造・表示・数量等により取扱いが異なるため、最終仕様で確認。原液 SDS の「非該当」はそのまま転記しないこと。
毒物及び劇物取締法	非該当
化学物質排出把握管理促進法（PRTR）	非該当。
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物。エアゾール缶として自治体・処理業者の指示に従う。

16. その他の情報

記載内容は当社の最善の調査に基づいて作成しておりますが、記載のデータの評価に関しては必ずしも安全性を十分に保証するものではありません。すべての化学製品には未知の有害性が有り得るため、取り扱いには細心の注意が必要です。ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようお願いします。また、記載事項は通常
の取り扱いを対象としたものですので、特別な取り扱いをする場合には、新たに用途・用法に適した安全対策を実施の
上でご使用ください。当製品安全データシートは、日本国内法規を基準に作成しています。